

都城県参事

桂久武



明治維新から150年となる今年は、かつての動乱期を振り返り学ぶ企画が、全国各地で行われています。また、大河ドラマ「西郷どん」の放送を機に、南九州でも企画展などで盛り上がっています。本市でも、都城島津邸などの特別展や、西郷隆盛のひ孫西郷隆夫さんなどを講師に迎えた歴史講座を開催しています。

今回は、明治維新の立役者と言われる西郷や大久保利通に引け取らない活躍をした「桂久武」を集めます。西郷らほど有名ではありませんが、彼らの影となり日な

一、ちようし朝旨を尊奉すること

二、学業に勉励し人材を教育すべきこと

三、民事を勧興し県内を富ますべきこと

たとなって支えた桂は、鹿藩置県後に生まれた都城県の参事(現：知事)を務めた人物です。

これまで、歴史上で脚光を浴びることの少なかった桂。今回、幕末から維新期の桂の活躍や人物像から、現代の私たちが習うべき桂の「教え」について考えます。

◎問い合わせ

秘書広報課 ☎23-33174

華麗なる経歴

天保元年(1830) 5月、日置領主島津久風の第5子として誕生。安政2年(1855)、26歳のときに桂久ひらひらの養子となります。同4年に藩に初めて出仕。数々の藩の要職を務め、慶応元年(1865)には、家老にまで上り詰めます。そして、国父(藩主の父)島津久光ひらひらに許され沖永良部島から帰国した西郷と共に、倒幕に向けて突き進んでいきます。

明治3年(1870)4月に鹿児島藩権大参事(現：臨時的副知事)、9月大参事となり、西郷と共に鹿児島藩政を掌握し活躍しました。明治4年12月、都城県参事となり、後世の人材育成などの指針ともなる「3箇条」を残しました。

都城県と桂久武

明治4年(1871)11月14日に新たに誕生した都城県。その範囲は、大淀川以南から大隅半島まで及びました。

明治政府の改革に基づく版籍奉還や藩政改革によって、藩の解体が進められていく中、同4年7月14日、藩を廃止する「廃藩置県」が行われます。「藩」という単位は廃止されましたが、実際の行政機能は、ほとんど藩のままでした。ここ

で、政府は同年10月から11月にかけて県を統廃合する「改置府県」を実施。これは、廃藩置県後の9月に具体案が作成され、3府302県が3府72県に統廃合されました。

その後府県は、数カ月間に統廃合を繰り返して、日向国(現：宮崎県)領域では、当初設置された6県から新たに八代県・美々津県・都城県が置かれました。ここに都城県が誕生したのです。

都城県参事「桂久武」

誕生した都城県の参事に、当時鹿児島藩政の中枢で大参事として活躍していた桂久武が選ばれました。都城県庁は、都城島津家領主館敷地内(現：都城市役所)に設置。桂の宿舎だった建物は、現在、曾於市に移築され現存しています。



都城県庁跡(都城市役所)

ていました。その解決に当たるため、鹿児島藩の大参事だった桂が赴任することになりました。

「桂の掲げた3箇条」

赴任した桂は、まず初めに都城県庁を定め、県内に次のような布告を出しました。

- 一、朝旨を尊奉すること
- 二、学業に勉励し人材を教育すべきこと
- 三、民事を勧興し県内を富ますべきこと

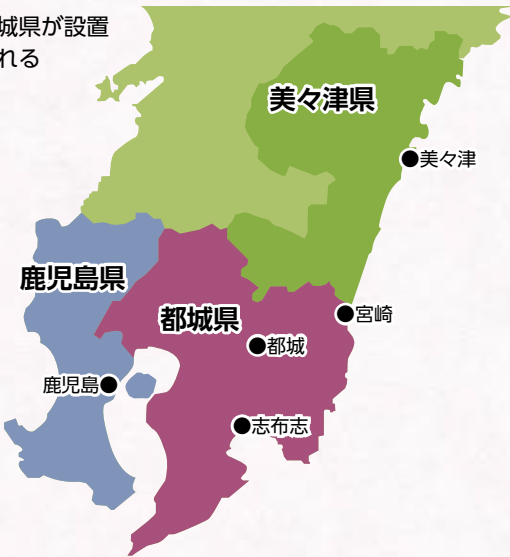
この中で、特に重視したのが二つ目の文教政策。学業を奨励して人材を育成するため、学校建設などを行いました。また、明治期の日本を支えた養蚕業や茶の生産、ハゼやコウゾなどの工芸作物の植え付けも積極的に奨励しました。

行政区域の変遷

●は現在の地名

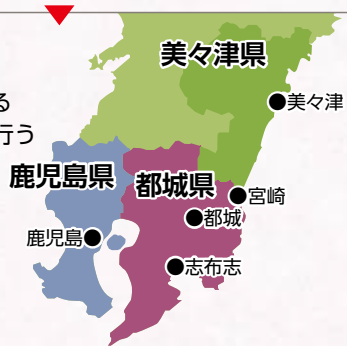
明治4年

都城県が設置される



明治5年

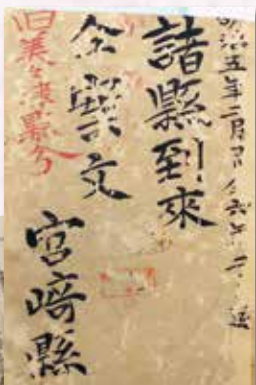
3県の県参事による県域の管轄替えを行う



これまで都城島津家が治めていた地に、薩摩藩の下級武士だった三島が最高責任者として赴任する事態に、都城の人々は激しく反発。家臣団から久寛の地頭就任を要望する嘆願書が提出されるほどでした。

また、政府は、旧飢肥藩を含めた都城県を、新政府の県としてどう統治するかという課題にも直面し

都城県の公文書収めた「諸県到来同案文」



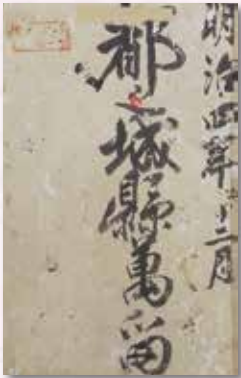
また、県内は支配の異なった旧藩の所領が混在していたため、県民意識の醸成が喫緊の課題となっていました。明治5年に赴任した桂は、県庁の開庁と併せ、地域を管轄する郡治所を9つ設け、統治。郡治所には、郡長、副長、里正、副正などを定め、県民意識を醸成しました。

明治政府は、「藩」に変わる新たな行政単位として「県」を置き、行政機構の整備に当たりました。都城県では、明治5年、権典事以下21人の県官を任命。「県治条例」に即して職制を定め、行政機構4課（庶務・聴訟・租税・出納）を設置しました。

模範となる行政機構の整備

また、版籍奉還によって藩から返還された人々を把握することを目的とした戸籍編成を始め、県内に48の戸籍区「大区」を設定。郡治所の郡長を大区戸長、副正や里正を大区副戸長と改称しました。桂は、このように明治政府の中で模範となる行政機構の整備を行っています。

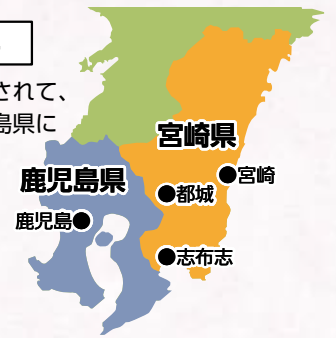
さらに、桂を含む南九州の3県（都城県、鹿児島県、美々津県）の県参事が共同で、大胆な県域の管轄替えを行いました。



都城県にまつわる文章をつづった「都城県方留」

明治6年

都城県は分割されて、宮崎県と鹿児島県に併合される



明治8年

宮崎県は鹿児島県に併合される



明治16年

現在の行政区となる



インタビュー



写真提供：NHK

大河ドラマ「西郷どん」

桂久武役 井戸田 潤さん

プロフィール

(株)ホリプロ所属。お笑いコンビ「スピードワゴン」のメンバー。バラエティ番組の他ドラマなど多方面で活躍。

男が惚れた、桂久武

～西郷を太陽のように見守り、大地のように支えた上司～

大河ドラマ出演が決まったときに「ドッキリ」だと思いました。撮影が始まったばかりの頃は、あまりの豪華キャスト陣に身がすくみ、緊張しました。

役柄を知ろうと、鹿児島県立図書館に行き、原口泉館長に話を聞きました。史実でも脇役の人だと思っていましたが、元々は西郷を太陽のように見守り、大地のように支えた上司であり、晩年は無二の親友であったことを聞き、今ではこのように素晴らしい人物を演じられることに喜びを感じています。また、桂久武の子孫に当たる人からは激励の手紙をもらい、感激

したと同時に身の引き締まる思いでした。

これから、「西郷どん」も佳境を迎えます。皆さん、最後まで応援してください。

また、11月23日(金)の島津発祥まつりの明道館パレードに、私も参加します。ぜひ、応援に来てください。

TOPIC

11月21日(水)から25日(日)まで、都城島津邸本宅で大河ドラマ『西郷どん』全国巡回展が開催されます。ドラマの魅力と各時代を、パネルや映像で紹介するほか、衣装や小道具などが展示されます。

時代を維新へと 導いた桂久武

①薩長同盟の行方を 握った「天機伺」

文久2年（1862）の島津久光の率兵上京を機に、参勤交代制が緩和され、共に許可されたのが「天機伺」。幕末の政治史で一番重要だったのが、天皇の意向を伺い、どのように取り入るかということでした。

歴史の教科書に必ず出てくる薩長同盟。同盟を組む長州のため、天皇に長州を認めてもらうという天気伺を行うことが最も重要で、その役割を担ったのが、筆頭家老の桂でした。薩長同盟の協議の際に、桂小五郎（木戸孝允）が桂への土産を西郷に託しています。桂小五郎が、贈り物をいつも桂に届けていたことから、桂が一目置かれる存在であったことが分かります。

②戊辰戦争に向けた 万全の備え

諸藩が京都洛内に藩邸を構えられるようになると、薩摩藩は桂の采配により、広大な藩邸を建築しました。さらに、岡崎（現：京都市左京区）に5万坪、小松原（現：京都市北区）に弾薬庫を備えた藩邸を構え、調練場（軍事訓練場）ともしました。京都に広大な藩邸を有したことが、鳥羽伏見の戦いを勝利へ導く一因となりました。

さらに、世界文化遺産になつている小菅ドッグ（小菅修船場跡・長崎県長崎市）の用地取得も桂が采配。藩が外国から買い入れた蒸気船の補修のため、小松帯刀や五代友厚が計画立案と実務に当たりました。



小菅ドッグ

天保1年5月 (1830年)	嘉永4年2月 (1851年)	嘉永6年6月	安政2年 (1855年)	安政4年	安政5年6月	7月	9月	万延1年3月 (1860年)	万延2年 12月	文久2年3月 (1862年)	4月	文久3年7月 8月	元治1年6月 (1864年)	7月	8月	9月	11月	慶応1年6月 (1865年)
-------------------	-------------------	--------	-----------------	------	--------	----	----	-------------------	-------------	-------------------	----	--------------	-------------------	----	----	----	-----	-------------------

日置領主島津久風の第5子として誕生

島津斉彬が薩摩藩主に就任
ペリー艦隊が浦賀沖に来航
桂久徴の養子となる

藩に初出仕

日米修好通商条約締結
島津斉彬没
安政の大獄

桜田門外の変

山崎地頭職に就任
大島警衛と鉾山方に就任

島津久光が率兵上京

寺田屋騒動
薩英戦争
八・一八の政変

大島での任期が終了し、薩摩に帰国

禁門の変・長州出兵
勘定奉行に就任
大目付に就任

御家老職加判役、御用部屋詰に就任

谷山地頭職を兼務



現在の寺田屋



ペリー艦隊来航記念碑

③ 時代を先取りした開墾「桂内集落」

「侍の世が終わる」。桂は、歴史の分岐点に立ったとき、家臣を今後いかに生かしていくのか悩みました。そして、導き出したのが「刀をくわに持ち替えて」国を豊かにすることでした。要職を離れた桂は私財を全て投じ、霧島田口（現：霧島市桂）の寺領500石（約37・5畝）の払い下げを受け、家臣に開墾を命じます。このとき桂は、家臣の将来を考え、「命令に従わないものは、自分の家来ではない」とまで言い放ち、開墾を強要しました。幕府との対決が目の前に迫るこの時期、家臣に開墾を命じた桂は、すでに廃藩置県後の先の世を見据えていたのです。

賢君である島津斉彬が推進した「富国強兵」。桂は、この「富国」の礎となり、明治期の日本を支えた養蚕業をこの地で行いました。



現在の桂内集落（写真提供：霧島市）

④ 盟友と最後まで共に戦った「西南戦争」

西南戦争が勃発した明治10年、都城は鹿児島県の管轄となりました。桂は当初、戦争への参加の意思はなかったといわれています。しかし、その後、西郷への助けが必要と悟った桂は、西郷軍に参加し、城山陥落の9月24日、銃弾に倒れました。享年48歳でした。



西南戦争錦絵「鹿児島征討全期之内 於城山西郷隆盛以下最後図」

※宮崎県総合博物館の特別展で12月2日(日)まで展示

慶応2年	1月	12月	9月
慶応3年	10月	12月	
慶応4年	1月	3月	
明治1年	4月		
(1868年)			
明治2年	2月	5月	
明治3年	4月	6月	
明治4年	7月	9月	
明治5年	6月		
明治6年	1月		
明治10年	2月	9月	

1 家老職に就任
藩命により上京 12月18日伏見到着
薩長同盟締結

2 桂は、藩の寺院取調係に就任し、寺院の統廃合に着手。廃止した寺院の土地を下級武士に与え、経済的基礎を安定させ、出兵できる状況を作りました。

3 15代将軍徳川慶喜が大政奉還
王政復古の大号令
霧島神宮下田口に桂家家臣による桂内開拓地の建設を着手
戊辰戦争始まる（鳥羽伏見の戦い）
五箇条の御誓文公布
江戸無血開城

藩主忠義の懇望により藩政改革のための参政職に就任
戊辰戦争終わる
版籍奉還
鹿児島藩権大参事に就任
大参事に就任
廃藩置県
都城県参事に就任

4 鹿児島で明治天皇に拝謁
都城県を廃止し宮崎県設置。豊岡権県令を辞退。
以後、霧島田口にある桂内集落の開拓に従事
西郷と懇談し、そのまま西南戦争に参加
西郷らと共に戦死。嫡子も17歳で戦死



三県鹿児島・都城・美々津分界之図



桂久武の墓

忠義を尽くし、情に厚かった桂久武

誰からも慕われた桂の人柄について、鹿児島県立図書館原口泉館長に聞きました。

島津氏の分家、日置島津家の出身である桂久武。26歳の時に、同じ分家である一所持桂家の養子となり、その後、薩摩藩で筆頭家老を務めます。明治維新後は、鹿児島藩権大参事となりました。桂の長兄の島津久徴は島津斉彬の首席家老。次兄の赤山鞠負は藩で起こった跡継ぎ争い「お由羅騒動」で切腹させられるほどの重臣でした。さらに、三兄の田尻務は霧島神宮で初代宮司を務めました。桂兄弟は、それぞれが輝かしい経歴の持ち主でした。

【桂の優つて、愛あつた一面も】

桂は、とても品行方正な人物で、家臣だけでなく誰からも慕われて

いたようです。桂が日々の出来事をつづった「桂久武日記」では、よく家臣と共にイノシシ狩りを楽しんだことや、霧島山麓で弓の大会を開催していた様子が記されています。桂が都城県に赴任した際、霧島田口の住民が鶏を持参して祝う様子も記されています。

また、屋敷に部下が誰も来なかったと嘆く一文もあり、桂の少し寂しがり屋で愛らしい一面が垣間見られます。

【霧島神宮に奉納された幻の強弓】

あまり知られてはいませんが、桂は弓の名手でした。昭和48年発行の「鹿児島つれづれ草」には、「日本において、戦争で弓を使った最後の人」と紹介されています。西南戦争で使用した弓は、兄の田尻が宮司を務めた霧島神宮に奉納されました。その後の戦争で、弓



原口泉さん

東京大学文学部国史学科、同大学大学院修士課程修了。2001年から志學館大学教授、鹿児島大学名誉教授。2012年に鹿児島県立図書館長を兼務。NHK大河ドラマ「西郷どん」などの時代考証を担当

は焼失してしまいました。黒塗りの強弓だったそうです。都城島津家所領で生産された竹弓は、藩内でも名声が高く、現在、その流れをくむのが国指定の伝統的工芸品「都城大弓」です。桂が使用していた弓も都城で生産された竹弓だったかもしれません。

【有能な政治家】

残された史料をひもとくと、桂が有能な政治家であったことが分かります。薩長同盟では筆頭家老として同席。戊辰戦争では兵糧などの物資や武器などを調達して戦地に送る役割を果たしました。また、戊辰戦争以前に「侍の世は終わる」と時代の変化を予測し、家臣に開墾をさせています。さらに、明治政府で要職を歴任

し、その後、鹿児島に帰った桂は、銅山開発にも私費を投じて取り組みました。このように開墾や銅山開発など、土族の雇用の受け皿を用意しました。

【信頼を寄せた熱き盟友】

西郷は桂を信頼し心を寄せていて、奄美大島に残した妻子の世話を頼んでいます。さらに西郷は、行動を起こす際には、必ず桂に相談していました。西郷が宛てた書簡では、藩の幹部の浮気を愚痴るほど信頼していたことが分かります。国のため忠義を尽くし、情にも厚かった桂は、共に戦ってきた西郷が起こした西南戦争で最後まで西郷を支えました。



桂の教えを今に受け継ぐ 都城教育の日

毎年2月18日は「都城教育の日」。この日に寄せる思いを児玉都城教育長に聞きました。

都城教育の日は明治5年2月18日、桂が都城県参事に着任するに当たって示した三つの方針の一つ「学業に勉励し人材を教育すべきこと」にちなんでいます。平成27年度、四つの方針を掲げ、都城教育の日を制定しました。

都城島津邸では、地域の伝統や歴史に触れながら楽しく学べる島津の教え「郷中教育体験講座」を実施。島津発祥まつりでは、いろは歌かるた大会も開催しています。

また、市立図書館には、世界史や日本史、そして都城史が一堂に並ぶ書架を設置。都城史は、地域

都城教育長

児玉 晴男さん



都城教育の日 4つの方針

1. 常に学び、都城を担える「人材」を目指す
2. 学び合い、助け合い、平和で豊かなまちをつくる
3. 家庭で、学校で、地域で、自分でできることを考え、行動する
4. 郷土の歴史を学んで、郷土を愛し、誇りを持つ

の祭りや街並みの変遷、地域の生業など、今後、市民の皆さんが自ら考え制作していく「新しい都城史」が並ぶ予定です。桂の教えに由来した「都城教育の日」に、市民の皆さんが改めて四つの方針を再確認し、生涯にわたって学びを深めることに目を向けてほしいと思います。

TOPIC



桂も受け継いだ教え

「郷中教育」

島津家中興の祖で、島津義弘の祖父島津忠良が作った「日新公いろは歌」は、郷中教育の基本精神となったもので、都城島津家所領の本市でも受け継がれてきました。

郷中教育は、薩摩藩の人材育成のシステムとして有名です。青少年を「稚児（6〜15歳）」「二才（15〜25歳）」に分け、勉学や武芸、肉体的鍛錬を通じて先輩が後輩を指導していたもの。年齢が異なる若者が集い、教え合い、鍛え合う、自治的な教育でした。

安永2年（1773）、斉彬の曾祖父重豪が人材育成の核となる藩校「造士館」を設立。都城島津家でも同7年に久倫が稽古所（後の明道館）を設立しました。

桂は、西郷を始めとする優秀な人材を多く輩出したこの教育方針を新しい県政でも生かそうと、3箇条の一つに盛り込み、県内に学校を整備しました。

「編集後記」

「学び」を生かすということ

皆さんは、都城県参事「桂久武」をご存知でしたか。明治初期に都城県があつたということは知っていましたが、今回の特集で桂の偉業や人となりに触れ、改めて本市の「都城教育の日」に込められた学びを知り、人を育てることの大切さを目を向けることができました。

常に先を読み、決断した桂は、人を愛し、愛された人でした。西郷や大久保などから敬愛され、私財を投じて家臣の行く末に責任を持つとうとした桂は、これまで歴史上、脚光を浴びていませんが、その生き様は私たちに学び続けることの大切さを教えてくれます。

今後、市立図書館に陳列予定の「市民が作る都城史」。地域で脈々と受け継がれてきた祭りや行事、そして発酵食品や茶など都城で育まれてきた生業について、さまざまな分野や視点で制作されます。

新たな都城史から、ふるさとのこれまで知らなかった一面を知り、より深く学ぶ機会が生まれると思うと、今からわくわくします。